

令和4年度～

幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業

架け橋プログラムの取組について

～高知県教育委員会事務局幼保支援課の取組～

本日の内容

～架け橋プログラム 国や県の動向～

1. 幼保小の架け橋プログラムのねらい
2. モデル地域の取組
3. 架け橋期のカリキュラムをどのよう
に作成するのか

架け橋プログラム～国の動向～

発達や学びの連続性を踏まえた連携・接続の視点

→幼児教育

小学校教育→

4歳児

5歳児

接続期

1年生

2年生

架け橋期（年長～1年生の2年間）

- ・ 学年間の教育課程を基にした連携・接続
- ・ 教育・保育内容の更なる充実
- ・ 園児と小学生との交流活動
- ・ 教職員同士の合同研修会、連絡会

など

- これまでの接続期の取組を継続・充実させつつ、**架け橋期**へと広げ、子どもの育ちや学びを資質・能力でつないでいく
- 子供に関わる全ての関係者間の連携強化

架け橋プログラム～国の動向～

別添1

幼保小の架け橋プログラムの実施に 向けての手引き（初版）

令和4年3月31日
文 部 科 学 省

学びや生活の基盤をつくる
幼児教育と小学校教育の接続について
～幼保小の協働による
架け橋期の教育の充実～

別添2

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの 参考資料（初版）

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、
幼保小の先生と一緒に子供の姿から話し合おう

令和4年3月31日
文 部 科 学 省

令和5年2月27日
中央教育審議会初等中等教育分科会
幼児教育と小学校教育の
架け橋特別委員会

学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について ～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～

令和5年2月27日 中央教育審議会初等中等教育分科会 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会

(参考資料) 幼保小の架け橋プログラムの実施に向けてのガイド及び参考資料(初版) (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019_00002.htm)

- ・ 幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、**全ての児童に等しく機会を与えて育成**していくことが必要。
- ・ 幼児期は遊びを通して小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う時期であり、**小学校においてはその芽生えを更に伸ばしていくことが必要**。そのため、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することが重要。
- ・ 一方、幼児教育と小学校教育は、他の学校段階等間の接続に比して様々な違いを有しており、円滑な接続を図ることは容易でないため、**5歳児から小学校1年生の2年間を「架け橋期」と称して焦点を当て、0歳から18歳までの学びの連続性に配慮しつつ、「架け橋期」の教育の充実を図り、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる**ことが重要。
- ・ 架け橋期の教育を充実するためには、幼保小はもとより、家庭、地域、関係団体、地方自治体など、**子供に関わる全ての関係者が立場を越えて連携・協働**することが必要。
- ・ 教育行政を所掌する文部科学省は、**こども家庭庁をはじめとする関係省庁と連携を図りながら、家庭や地域の状況にかかわらず、全ての児童が格差なく質の高い学びへと接続できるよう幼児期及び架け橋期の教育の質を保障**していくことが必要。

これらを踏まえ、以下の方策を推進

1. 架け橋期の教育の充実

幼児教育施設と小学校は、3要領・指針[※]及び小学校学習指導要領に基づき、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することが必要。^{※ 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領}

① 子供の発達段階を見通した架け橋期の教育の充実 **幼 小**

- ・ 幼児教育と小学校教育では、各教科等の区別の有無や内容・時間の設定など様々な違いを有することから、**幼保小が意識的に協働して「架け橋期」の教育を充実**
- ・ 幼児教育施設においては、**小学校教育を見通して「主体的・対話的で深い学び」等に向けた資質・能力を育み**、小学校においては、**幼児教育施設で育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施**。特に、小学校の入学当初においては、小学校において主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことを可能にするための重要な時期であり、幼児期に育まれた資質・能力が、低学年の各教科等における学習に円滑に接続するよう教育活動を実施

② 架け橋期のカリキュラムの作成及び評価の工夫によるPDCAサイクルの確立 **幼 小**

- ・ **幼保小が協働して、3要領・指針において幼児期の資質・能力が具体的に現れる姿として定められている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等を手掛かりとしながら、架け橋期のカリキュラム[※]を作成**。小学校1年生の修了時期を中心に**共に振り返って、架け橋期の教育目標や日々の教育活動を評価し、幼保小それぞれの教育を充実**
※ 幼保小が協働して、期待する子供像や育みたい資質・能力、園で展開される活動や小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等を明確化したもの
- ・ 幼保小の合同会議等を定期的開催するなど、**幼児教育施設と小学校の継続的な対話を確保**、コミュニティ・スクール等を活用し、**保護者や地域住民の参画を得る仕組みづくり**

2. 幼児教育の特性に関する社会や小学校等との認識の共有

幼児教育施設と小学校が、保護者や地域住民等の参画を得ながら、架け橋期の教育の充実を図るためには、幼児教育の特性について、認識の共有を図ることが必要。

① 幼児教育の特性に関する認識の共有 **幼 小**

- ・ 幼児期の遊びを通じた学び[※]の特性に関する社会や小学校等との認識の共有が未だ十分ではないため、様々な研究や実践の成果に基づく知見を活用して幅広く伝え、**遊びを通じた学びの教育的意義や効果の共通認識を図る**
※ 幼児期は、子供が遊びを中心として、頭も心も体も動かして、主体的に様々な対象と直接関わりながら総合的に学んでいくとともに、遊びを通して思考を巡らし、想像力を発揮し、自分の体を使って、友達と様々なことを学んでいく

② ICTの活用による教育実践や子供の学びの見える化 **幼**

- ・ ICTを活用したドキュメンテーションやポートフォリオにより**日々の教育実践や子供の学びを「見える化」し**、先生の教育の意図等を併せて伝えることにより、幼児教育の特性や教育方針等について、**保護者や地域住民の理解を促進**
- ・ 「見える化」による保護者や地域住民との連携の**好事例等を収集・発信**し、幼児教育の特性に関する社会の認識を向上

3. 特別な配慮を必要とする子供や家庭への支援

障害のある子供や外国籍等の子供など、特別な配慮を必要とする子供や家庭への適切な支援が必要。

① 特別な配慮を必要とする子供と家庭のための幼保小の接続 **幼 小**

- ・ 特別な配慮を必要とする子供の対応が増加しており、幼児教育施設・小学校と、母子保健、福祉、医療等の関係機関との連携強化により、切れ目ない支援を実施
- ・ 国や地方自治体において、障害のある子供や外国籍等の子供などの受入れに関する研修プログラムを開発、研修資料や教材を作成
- ・ 幼児教育施設は、一人一人に応じた指導を重視する幼児教育のよさを生かしながら子供の実態に応じた適切な支援を実施、小学校は、引き継いで必要な支援を実施

② 好事例の収集 **幼 小**

- ・ 幼児教育施設や小学校における子供の多様性に配慮した教育の充実に関する好事例等を収集・蓄積して活用

4. 全ての子供に格差なく学びや生活の基盤を育むための支援

核家族化や地域の関わりの希薄化に伴い、家庭や地域の教育力が低下し、幼児教育施設の役割が一層重要。

① 幼児教育施設の教育機能と場の提供 **幼**

- ・ 0歳から5歳の未就園児も含め、様々な体験の機会が得られるよう、幼児教育施設が有する専門的な知見や場を地域に提供し、様々な子供の学びの場への参加を推進
- ・ 幼児教育施設において、保護者の幼児教育に対する理解を深めるとともに、親子登園や相談事業、一時預かり事業等の子育て支援を充実

② 全ての子供のウェルビーイング[※]を保障するカリキュラムの実現 **幼 小**

- ・ 全ての子供のウェルビーイングを高める視点から、教育課程の編成^{※※}や指導計画の作成、実施や評価、改善等

※身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期
的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念
※※保育所は「全体的な計画」、幼保連携型認定こども園は「教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画」の作成

5. 教育の質を保障するために必要な体制等

設置者や施設類型を問わず、幼児教育の質の向上や幼保小の接続等の取組を一体的に推進する体制が必要。また、幼児教育施設における人材確保や勤務環境の改善等が必要。

① 地方自治体における推進体制の構築 **幼 小**

- ・ 地方自治体において、幼保小の担当部局の連携・協働や幼保の担当部局の一元化、幼児教育センターの設置・活用や幼児教育アドバイザーの配置等を推進

② 架け橋期の教育の質保障のために必要な人材育成等 **幼 小**

- ・ 幼保小に対して専門的な指導・助言等を行う架け橋期のコーディネーターや幼児教育アドバイザーを育成、幼保小接続や生活科を担当する指導主事の配置・指導力の向上
- ・ 幼児教育施設や小学校の管理職や先生の研修を充実
- ・ 架け橋期のカリキュラムや研修等を開発・実施する「幼保小の架け橋プログラム」を推進

③ 幼児期の教育の質保障のために必要な人材確保・定着等 **幼**

- ・ 国において、処遇改善等の必要な施策を引き続き実施
- ・ 地方自治体において、総合的な人材確保策を推進
- ・ 幼児教育施設において、管理職等がマネジメント能力やリーダーシップを発揮するための研修を充実
心理や福祉、障害等の専門的知見を有する者を積極的に活用
働き方改革を推進するため、ICT環境の整備を推進
- ・ 事故等の発生・再発防止のための取組を徹底

6. 教育の質を保障するために必要な調査研究等

幼児教育や幼保小の接続の分野について、データやエビデンスに基づく政策形成が必要。

① 幼保小接続期の教育に関する調査研究 **幼 小**

- ・ 国において、架け橋期のカリキュラムに基づく評価方法や、諸外国における子供の多様性を尊重した幼保小の接続期の具体的支援や体制の構築について、調査研究を推進

② 幼児期の教育に関する調査研究 **幼**

- ・ 国立教育政策研究所幼児教育研究センター、大学、地方自治体、幼児教育関係団体、民間研究機関等からなる国内外の研究ネットワークを構築
- ・ 質の高い幼児教育とは何かを明らかにするため、国のプロジェクトとして、大規模な長期縦断調査を実施
- ・ 日本独自の質評価指標の開発や国内研修等において活用しやすい質評価指標の開発を推進

1. 架け橋期の教育の充実

① 子供の発達の段階を見通した架け橋期の教育の充実



幼児教育施設

小学校教育を見通して「主体的・対話的で深い学び」等に向けた資質・能力を育む

小学校

幼児教育施設で育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施

小学校の入学当初 → スタートカリキュラムの充実

小学校において主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことを可能にするための重要な時期であり、幼児期に育まれた資質・能力が、低学年の各教科等における学習に円滑に接続するよう教育活動を実施

1. 架け橋期の教育の充実

② 架け橋期のカリキュラムの作成及び評価の工夫による PDCAサイクルの確立

架け橋期の
カリキュラムの作成

幼保小が協働し、共通の視点をもって教育課程
や指導計画を具体化できるようにする

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等を手掛かりとする
- 幼児教育施設と小学校の継続的な対話を確保
(子供の姿の事例を通して、具体的に対話をする)
- 小学校1年生の修了時期を中心に共に振り返って、架け橋期の教育目標
や日々の教育活動を評価
- 園で展開される活動や小学校の生活科を中心とした各教科等の
単元構成等を明確化
- 保護者や地域住民の参画を得る仕組みづくり



2. 幼児教育の特性に関する社会や小学校等との認識の共有

① 幼児教育の特性に関する認識の共有



遊びを通した学びの教育的意義や効果の共通認識を図る

幼児期は、子供が遊びを中心として、頭も心も体も動かして、主体的に
様々な対象と直接関わりながら総合的に学んでいくとともに、遊びを通
して思考を巡らし、想像力を発揮し、自分の体を使って、友達と様々な
ことを学んでいく

R4年度→R5年度 幼児期の学び

小学校

幼児教育施設で育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施

幼児期の経験

遊びや学びのプロセス
(10の姿)

③協同性

友達と一緒に、看板づくりという共通の目的に向かって考えたり表現したり、協力したりしてやり遂げた充実感を味わっている。



③協同性

鬼になって友達を追いかけて遊ぶ中で、工夫して一人でも多く捕まえるために、協力してほしい友達に目的や方法を提案したり受け入れたり、足の速い友達にタッチする作戦を考えて伝え一緒に実現したりしようとしている。

R4年度→R5年度 幼児期の学び

遊びや学びのプロセス(10の姿)



⑩豊かな感性と表現

つなげてできた温泉に足を入れて、深さを確かめたり心地よさを味わったり、友達を誘い心地よさに共感しようとしている。



⑦自然への関わり・ 生命尊重

身近な生き物を飼育したり、飼育するのを見て触れるなど、好奇心をもって関わる中で、生命があるものへの愛情を感じ、大切にしようとする気持ちをもっている。



⑩豊かな感性と表現

これまでの経験を生かし、友達と一緒に考えたり試したりしながら、自分なりのアイデアや作り方で凧作りを楽しんでいる。

幼児期の資質・能力を生かした
スタートカリキュラムの授業

生活科（1年生）

「きれいにさいてね」

生活科学習指導要領 内容

- (7) 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする

R5年度の種まき

自分が育てたいものを 自分で決める



まりいごうとど

ひまわり

ひやくにちそう

こすもす

あさがお

おしろいばな

ふうせん
かずら



R5年度 生活科（スタートカリキュラム）

自分が育てたいものを自分で決める



自ら育て方を調べる姿につながる

家族に聞く

育てたことがある人に聞く

図書室で本を探して調べる



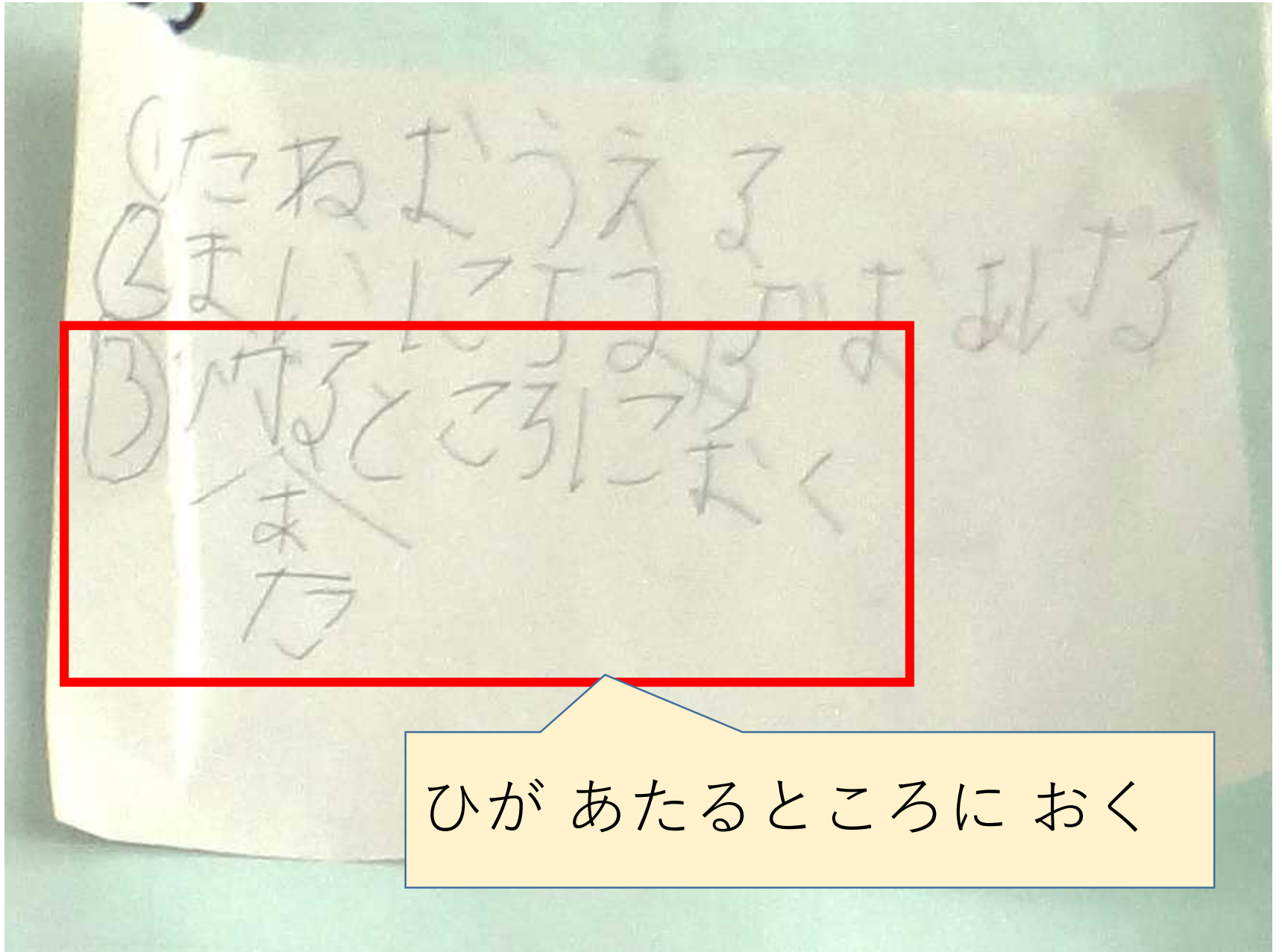
R5年度 生活科 (スタートカリキュラム)

ひやくにちそう

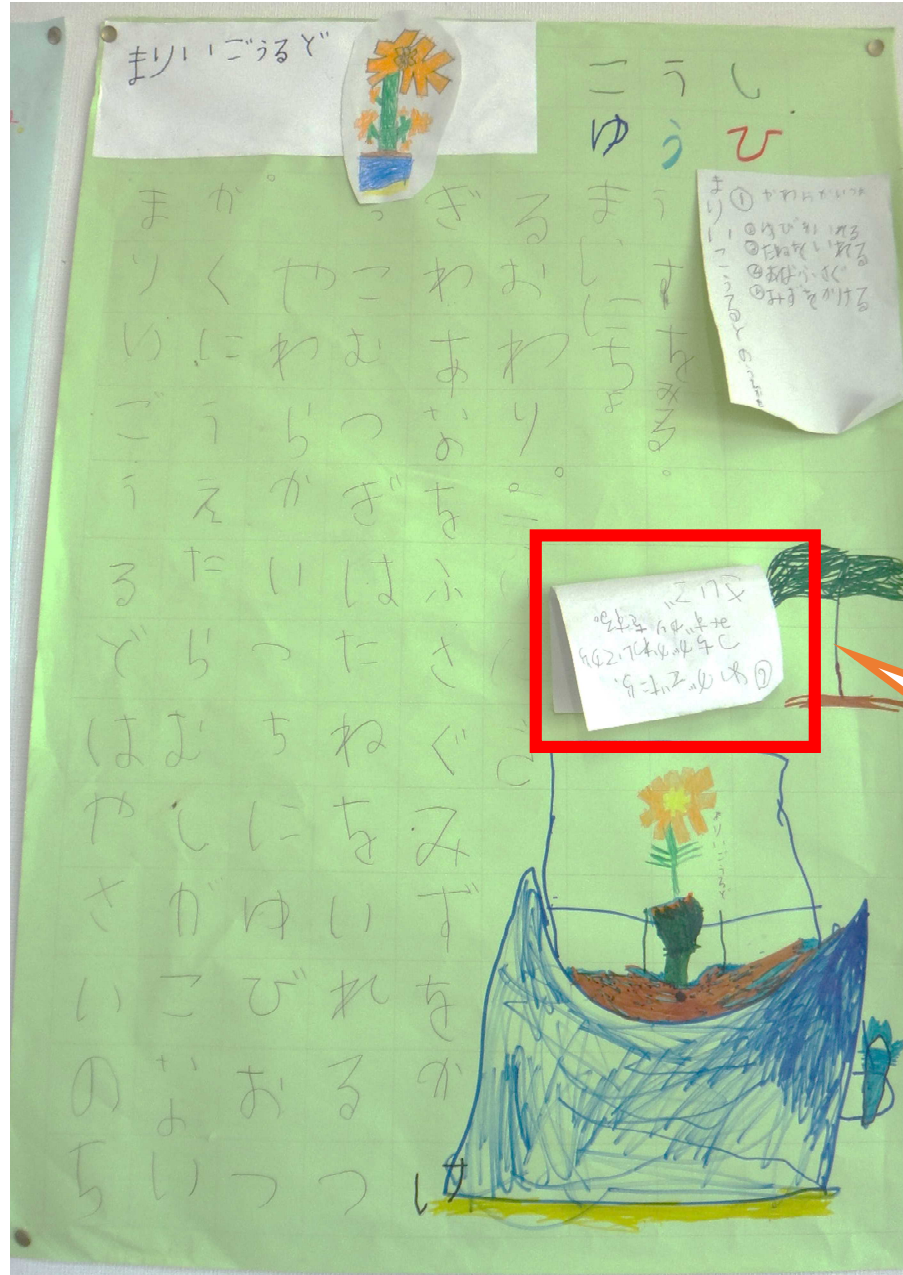


種まきの方法

R5年度 生活科 (スタートカリキュラム)



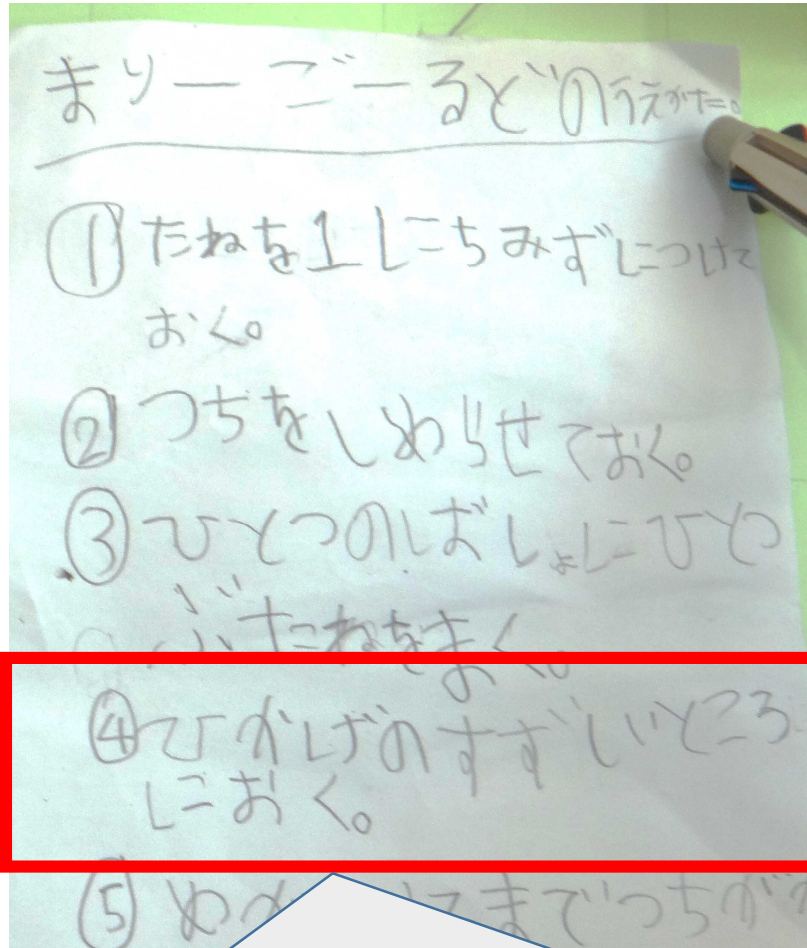
R5年度 生活科 (スタートカリキュラム)



まりいごうど

種まきの方法

R5年度 生活科 (スタートカリキュラム)



ひかげのすずしいところにおく

日なたと日かげ

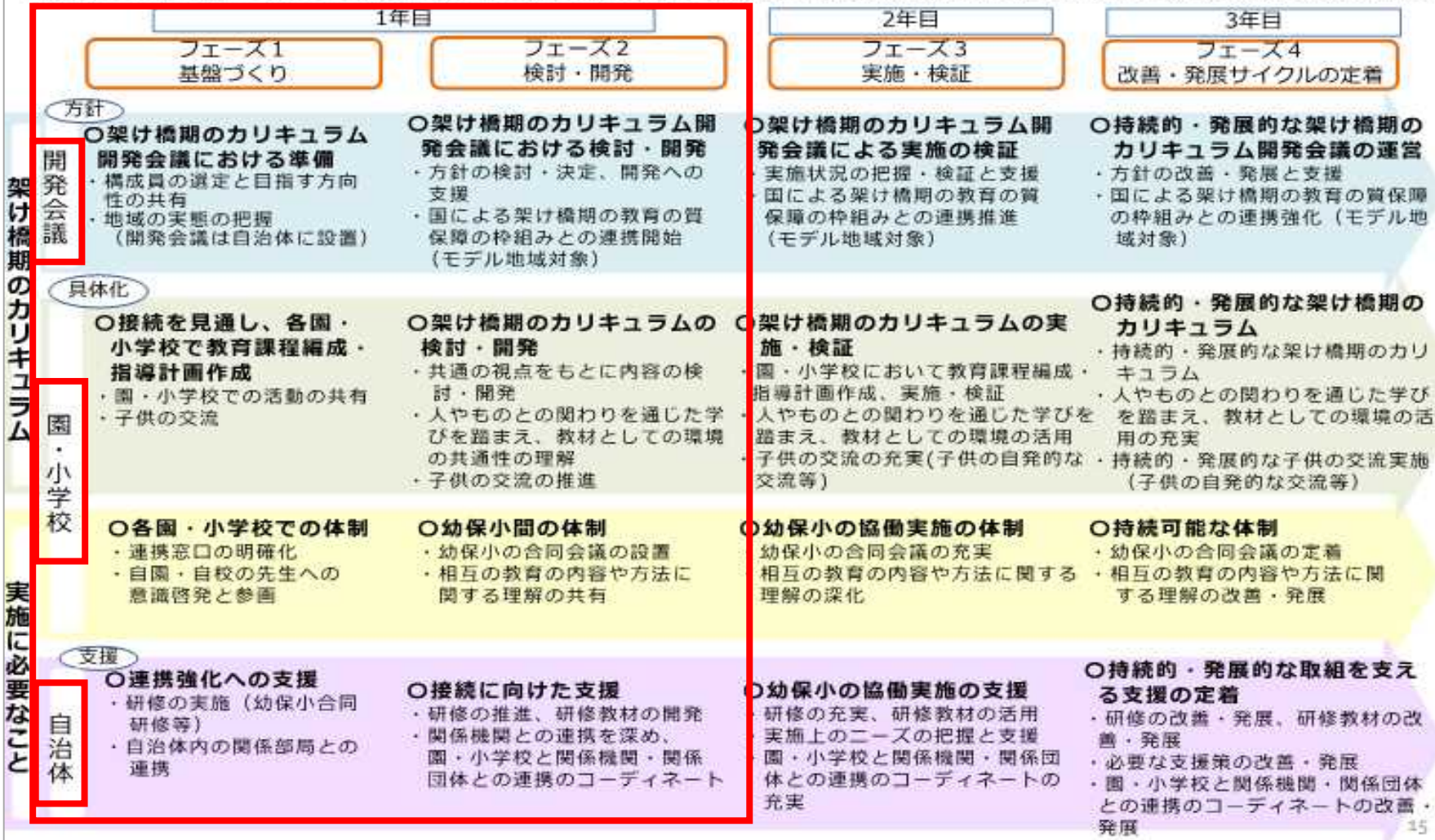
自分で鉢を置く場所を考えてやってみる



架け橋プログラムの進め方

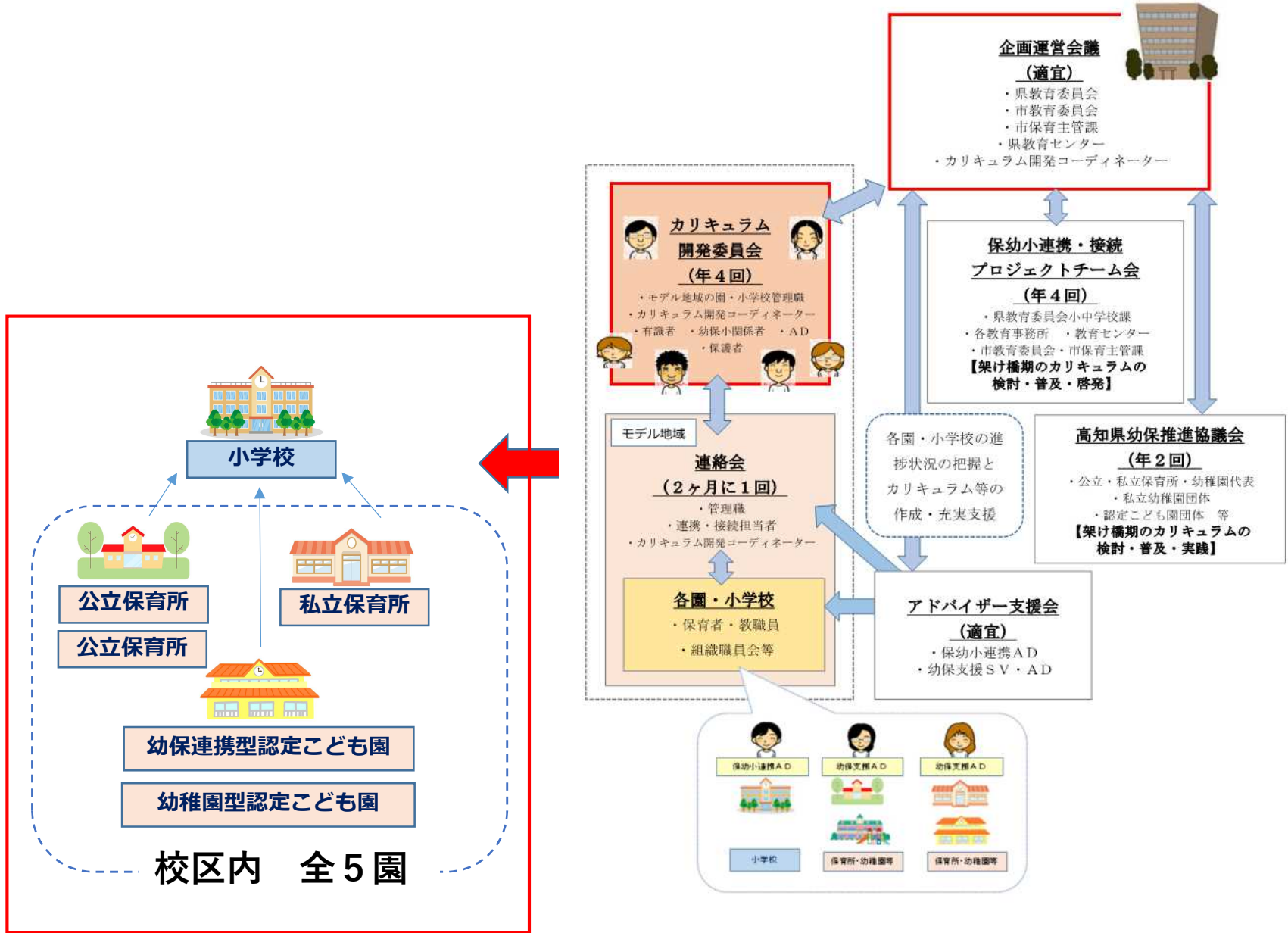
2-(6) 進め方のイメージ

注：基盤づくりから改善・発展サイクルの定着に至るまでのプロセスの目安。実際には、地域の実態に応じ、各フェーズ間を行きつ戻りつしながら発展していく。



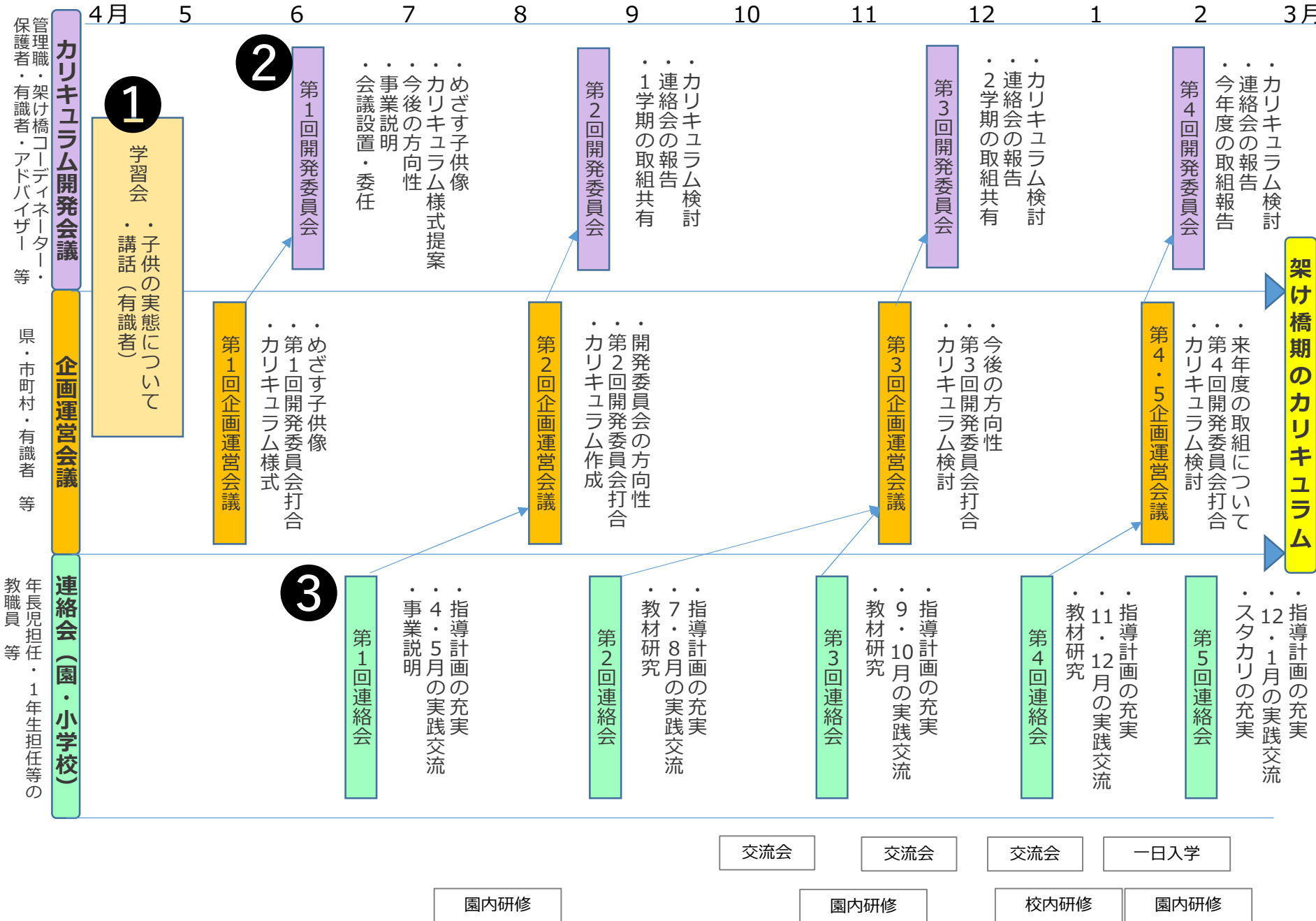
子供を真ん中にした話し合いを通して

高知県 体制図



高知県版「架け橋期のカリキュラム」ができるまで（1年目の取組）

子供を真ん中に据えて、3つの会議体で、発達や学びを語り合いながら、架け橋期（2年間）のカリキュラムが出来上がっていきます。そのプロセスこそが「接続」です。



カリキュラム開発会議
 管理職・架け橋コーディネーター・
 保護者・有識者・アドバイザー等

企画運営会議
 県・市町村・有識者等

連絡会（園・小学校）
 年長児担任・1年生担任等の
 教職員等

カリキュラム開発会議に向けての学習会 協議内容 「香野東小学校区子ども達のよさや課題について」

R4.5.9 (月)

《よさ》

友だち（異年齢）を大切にできる

- 友だちが困っているときに声をかけることができる。
- 仲間意識が強く、皆で助け合える。
- 異年齢児との自然な関わりがある。
- 小さい子どもが好きでお世話が出来る。

学びに対する興味・関心

- 友だちとの手紙のやりとりで文字に興味がある。
- 習題の提出率が比較的高い。(小)

元気・戸外遊びを好む

- 元気に挨拶ができる。
- 外遊びが好きで、楽しんでいる。
- 自然に恵まれているため、外遊びが大好き。

情緒の安定

- 穏やかで、思いやりがある。(年上、年下、友だちに興味がある)
- 穏やかで、情緒が安定している。(小)

清潔

- 人なつっこい
- 素直で、大人への警戒心が無い。(小)

自然物への興味・関心

- 生き物や花、葉っぱ、土など自然と関わるのが好き。
- 生き物に興味があり、探究心をもって遊んでいる。

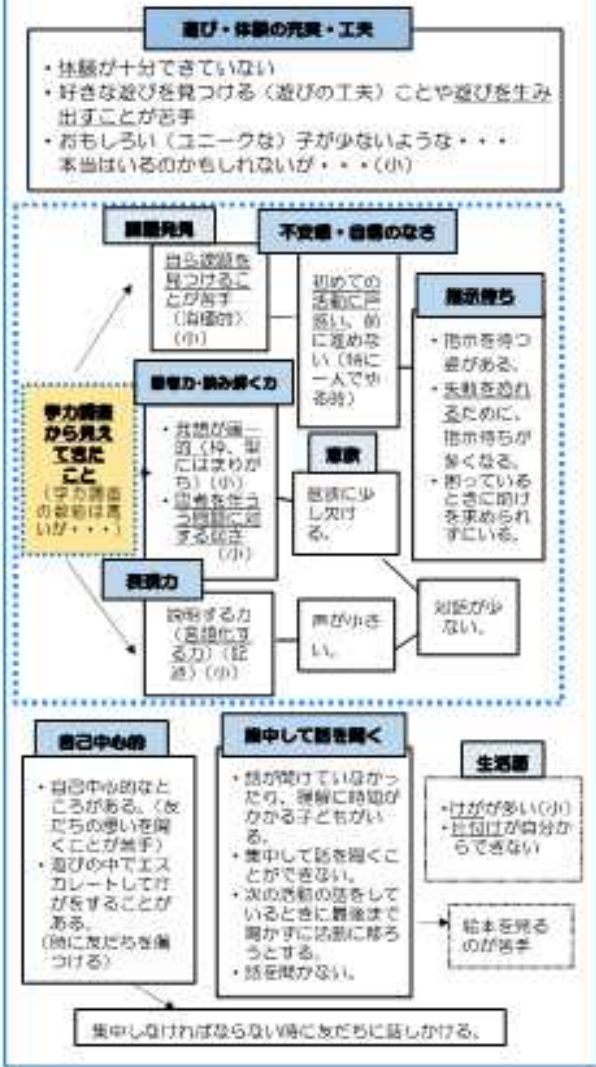
視覚器識が高い。(小)

- 言葉遣いがよい。(小)

表現力・伝える力

- 表現力が豊かである。
- 自分の思いを伝える力

《課題》



《課題に対する要因》

子どもに任せることができない(小)

先生の指示通りにすることが多いこと等われている。(小)

先生の話が聞きすぎる(大切なことは伝えていない)(小)

保育者が気づくことができていない

子どもに考えさせると思っているが、ついに、つらかり、保育者が指示をしてしまっている。

環境作り

遊ぶ環境を保育者が考えられていない。

遊びが固定化になっているのではない。

好きな遊びから引き出すこと

子どもの表現が豊かになるような環境構成や関わり等の提供が足りない。

挫折体験が少ない。

子どもの考えを聞き取っている大人の関わり

考えさせる保育

子ども一人一人にしっかりと向き合うことができていない。

一人一人の個性やつらかりを保育者が目を付けていないし、二人一人に同じに教育

先生の意識が不十分

教育方法を斬らない(見る機会がない)

主体的・対話的・深い学びが浸透していない

あなたはおなたという絶対課題

一人一人を大切にすることを

一言になりたい気持ちが強い

「よいこと」を期待しすぎている(学校も家庭も)

先生や友だちの気を引きたい

認められ感が少ない

言葉で関わりをもつこと

伝えたいことが理解できているか確認できていない

家庭環境が良いが、家庭に伝わらずにきているところがある。

少人数、決まった集団ならではの楽しさ

人との交流の楽しさ、知覚

日時：第1回 令和4年6月24日（金）
第2回 令和4年8月24日（水）
第3回 令和4年11月25日（金）
第4回 令和5年2月15日（水）（予定）

参加者：架け橋期のコーディネーター、保育所、認定こども園
小学校、有識者、アドバイザー、保護者
市教育委員会、市こども未来部、教育センター、事務局

内容：事業概要の説明、地域の実態把握
目指す子供像、方向性の共有
カリキュラムの在り方について
各所属での取組 等

2 学びを支える力とめざす子ども像につながる具体的な姿 (案)

令和4年度 架け橋プログラム事業 春野東小学校区：めざす子供像「主体的にチャレンジし、学びを将来につなぐことができる子ども」(案)

【子どもの実態から、今後育んでいきたい力】

～学びの芽生え・学力(資質・能力)向上に向けて～

知識・技能(の基礎)		思考力・判断力・表現力等(の基礎)		学びに向かう力・人間性等	
A) チャレンジ精神	B) 自尊感情	C) コミュニケーション力	D) 郷土愛		
<ul style="list-style-type: none"> 物事に主体的に取り組む力 他人に働きかけ巻き込む力 目的に向かって行動する力 あきらめずに最後まで頑張る力 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人のよさに気づき、認める力 自分は頑張ることができるという感情、自信 周囲から愛されているという感情 自分のことが好きという感情 	<ul style="list-style-type: none"> 人と関わる力 自分の意見(想い)を分かりやすく伝える力 相手の意見(想い)を聴く力 意見の違いを理解する力 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人等自分の生活に関係の深い人々とふれあい、親しみをもつ。 地域の人々との交流を通して、地域のよさや課題について学ぼうとする力 		

【学びを支える力とめざす子供像につながる具体的な姿(・)】

	保育所・幼稚園・認定こども園等					架け橋期		小学校							
	前期 0歳	1歳	2歳	中期 3歳	4歳	後期 5歳児	低学年 1年生	低学年 2年生	中学年 3・4年生	高学年 5・6年生					
知識・技能(の基礎)	身近なものに興味・関心をもつ					進んで学習に取り組む									
	<ul style="list-style-type: none"> 人やものの存在を感じる。 五感で感じる。 身の回りの人やものに関心をもって関わる。 好きな遊びや場所を見つけて安心して繰り返し楽しむ。 友達や保育者と一緒にすることを喜ぶ。 					<ul style="list-style-type: none"> 季節や生活の変化に気付く。 友達や保育者と一緒に工夫し、試行錯誤しながら遊びを進める。 友達や先生と一緒に挑戦しようとする。 生活や活動に見通しをもち、自信をもって行動しようとする。 友達や保育者と一緒に考えたり、工夫したり、興味・関心が広がる。試したり、協力したりする。 					<ul style="list-style-type: none"> 幼児期の経験を生かしながら学習や生活に取り組んでいる。 既習事項を生かし、見通しをもって学習に取り組んでいる。 自ら課題を設定し、積極的に学習に取り組んでいる。 				
	安心して自己発揮する					自分や集団の成長を感じ、自信をもつ									
	<ul style="list-style-type: none"> 特定の人に依存し、愛着を感じる。 快・不快を表現する。 安心感を感じる。 行動を共有(まね)する。 特定の人に見守られ、認められ、安心感を得る。 身の回りのことを自分でやってみようとする。 自分のやりたいことを主張する。 自分の気持ちを何とか調整する。 					<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を言ったり、友達の意見を聞いたりしながら気持ちの自己調整をする。 互いのよさを認め合おうとする。 善悪の判断に基づき行動する。 自分で決めて自分で行動する。 自分のよさに気づき、ありのままの自分を大切にす。 クラスや学校の一員として役に立つ喜びを感じる。 自分や友達のよさに気づき、相手を受け入れ、尊重しようとしている。 認め合ったり、励まし合ったりしながら自分や集団の成長を感じている。 									
思考力・判断力・表現力等(の基礎)	身近な人に自分の思いを表現する					自分の考えを伝えたり相手の考えを聞いたりすることで考えを深める									
	<ul style="list-style-type: none"> 特定の人に喃語や体の動きで思いを表す。 言葉と感情をつなげる。 生活の中の言葉が分かる。 言葉と文字がつながる。 家族や親しい人との会話を楽しむ。 相手に分かりやすく話すことの大切さに気付く。 目的を共有する。 					<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを伝えたり、友達の思いを聞いたりしている。 互いの話に関心をもち、相手の思いや考えを受けて話す。 自分の考えをクラスの友達に伝えたいという意欲をもって表現している。 自分の考えを相手に適切に伝え、相手の考えの相違点を捉えている。 自分の考えの伝え方を工夫したり、相手の考えを聞いて自分の考えを広げたり深めたりしている。 									
学びに向かう力・人間性等	いろいろな人やものと触れ合う					地域に愛着をもって関わる									
	<ul style="list-style-type: none"> 特定の人や自然、行事を知る。 言葉の響きを楽しむ。 身近な大人や友達や自然と関わる。 地域の人や自然、行事を知る。 地域の人や物に親しみをもって関わる。 					<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然に触れることで季節の移り変わりを感じる。 あこがれをもつ。 地域の人や物に親しみをもって関わる。 地域の人や自然に愛着をもち、自然を大切にしたり、安全で適切な行動をしたりする。 身近な人々や自然のよさのすばらしさに気付いている。 地域を詳しく知り、よさや特徴に気付いている。 地域のよさを生かしながら、課題に目を向けて解決を図っていく。 									

A) チャレンジ精神

B) 自尊感情

C) コミュニケーション力

D) 郷土愛

《春野東小学校区 めざす子供像》

認定こども園等		架け橋期	
4歳	後期 5歳児	低学年 1年生	低学年 2年生
<p>ものに興味・関心をもつ</p>			
<p>て関わる。</p> <p>心して</p> <p>することを喜ぶ。</p> <p>・友達や保育者と一緒に考えたり、工夫したり、試したり、協力したりする。</p>	<p>・季節や生活の変化に気付く。</p> <p>・友達や保育者と一緒に工夫し、試行錯誤しながら遊びを進める。</p> <p>・友達や先生と一緒に挑戦しようとする。</p> <p>・生活や活動に見通しをもち、自信をもって行動しようとする。</p> <p>・興味・関心が広がる。</p>	<p>・幼児期の経験を生かしながら学習や生活に取り組んでいる。</p>	<p>・不思議に感じたことについて見通し</p>
<p>自己発揮する</p>			
<p>感を得る。</p>	<p>・自分の意見を言ったり、友達の意見を聞いたりしながら気持ちの自己調整をする。</p> <p>・互いのよさを認め合おうとする。</p>	<p>・自分で決めて自分で行動する。</p>	<p>・自分のよさに気付き、ありのままの自分を大切にする。</p>

③

保幼小の架け橋期のカリキュラム連絡会

日時：第1回 令和4年6月24日（金）
第2回 令和4年8月31日（水）
第3回 令和4年10月31日（月）
第4回 令和4年12月27日（火）
第5回 令和5年2月6日（月）

参加者：保育所、認定こども園、小学校、アドバイザー
市教育委員会、市こども未来部、教育センター、事務局

内容：事業概要の説明、指導計画の充実に向けての演習
教材研究、指導計画の見直し
生活科単元構成の計画等

春野東小学校区5歳児年間指導計画の共通点

	4～5月	6～8月	9～12月	1～3月
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 5歳児になった喜びや自覚を持ち、様々な活動に意欲的に取り組む・・・5 身体を動かして遊ぶ楽しさを味わう・・・5 身近な自然（動植物）に興味をもち楽しむ（野菜や植物の栽培を通して）・・・3 友達と一緒に生活や遊びを楽しむ（つながりを深める）・・・2 	<ul style="list-style-type: none"> 夏の遊びを工夫して楽しむ・・・4 友達とのつながりや関わりを深め、工夫したり協力したりしながら遊ぶことを楽しむ（友だちの思いに気付く）・・・3 季節の移り変わりを感じ、自然に興味をもつ・・・2 目標に向かって仲間と競い合うことを楽しむ（少し難しいことにも挑戦・諦めないで・・・）・・・2 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と共通の目的に向かい、友だちと協力する楽しさ、達成感を味わう（一緒に考えを出し合うことで充実感をもつ）・・・4 季節の移りわりを感じながら、自然に親しんだり遊びに取り入れて遊ぶことを楽しむ・・・3 	<ul style="list-style-type: none"> 就学への期待・意欲をもつ・・・5 友達と互いの成長よさを認め合う・・・3 自然の変化に興味をもつ・・・2
内容	<ul style="list-style-type: none"> 動植物に興味をもち、成長やふれあいを楽しむ（関心をもつ、愛情をもって世話をする）・・・5 自分の思いを伝えながら安心して過ごせるようにする・・・4 （友達や保育者の話を聞き、内容を理解したり伝えようとしていたりする）・・・4 十分に体を動かして遊ぶ・・・3 這類関係を築き安心して過ごせるようにしていく・・・3 様々な素材を使って作ることを楽しむ（糊したり工夫したりして遊びを進める）・・・3 友達と一緒に歌ったり、踊ったりする・・・2 園生活で決まりを確認したり、守ろうとしていたりする（生活の場を整えようとする）・・・2 年下の子供に優しく関わる。世話をする・・・2 野菜や植物を栽培して成長や収穫を楽しむ・・・2 文字に興味をもつ・・・2 	<ul style="list-style-type: none"> 体調を崩さないように過ごしていけるようにする（夏の過ごし方がわかる）・・・3 野菜を育てたり収穫したりすることを楽しむ・・・3 意欲的に水と関わり挑戦しようとする（水、砂、泥などを楽しむ）・・・3 汗の始末や衣服の調節をする・・・2 生活や遊びの中で、お互いの思いに違いがあることに気付いていく（自分の気持ちを調節、折り合いをつけながら協力する楽しさや充実感を味わう）・・・2 	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊び、身体を動かすことを楽しむ（ルールを守って遊ぶ充実感を味わう）・・・3 目標（行事）に向かって取り組み、満足感や達成感をもつ・・・3 友達と折り合いをつけながら、互いの考えを認めたり、相手の気持ちに気付いたりする（役割を決めて）・・・3 季節の変化に気付き、自然を遊びに取り入れる・・・3 楽器遊びや、音楽に親しむ・・・3 文字、数、量を遊びに取り入れる・・・2 遊びに必要な材料、素材を考えて使い、工夫して作ったり遊んだりする・・・2 自分に自信をもって生活する、安心して表現・・・2 	<ul style="list-style-type: none"> 文字、数、量への関心をもつ、遊びに取り入れる・・・4 基本的な生活習慣の確立→自信、満足感、達成感・・・3 季節（冬）を感じたり、遊びに取り入れる・・・3 暑さや寒さを感じず身体を動かして遊ぶ・・・3 表現する楽しさを味わう（演じる、言葉、動き）・・・3 生活リズムを身に付ける・・・2 クラスやグループで役割分担・協力する・・・2 さいごまでやり遂げる・・・2 異年齢との関わりの中で・・・2 成長の自覚、喜びを実感する・・・2 製作を楽しむ（様々な用具、素材の扱い、繰り返し）・・・2 見通しをもち、時間を意識して過ごす（1日の流れや長期的な見通しがもてるよう、スケジュールを表示）

指導計画の充実に向けて

3

水をつかった遊び

園での遊びや生活と小学校生活科との経験のつながりを意識

1 テーマについて
 子供の姿：黄色
 内面：桃色
 環境構成・準備物：水色
 援助・支援：黄緑

2 付箋を出し合う

3 どんな力が育ったか、育とうとしたかを考える
 (10の姿に結びつける)

4 各園、校の指導計画を見直し、加筆する

ねらい。夏の遊びを工夫して楽しむ。…工夫したり協力したりしながら遊ぶことを通じて、季節の変わりを感じ、自然に興味をもつ

園

園での経験を生かしてシャボン玉を飛ばすストローや液を選んだり、作ったりできる環境にしてみても…

水でっぼうのコーナーでは、何かにめがけて水を飛ばす姿があった。的の準備をしてみたら挑戦したり友達と比べたりする姿につながるのではないかと。

2時間の授業の中で、どのような力を付けたいか、評価規準を明らかにして授業を組み立て実践することが大切

2022/08/31

小学校

目標)夏の自然と月物を使っている遊びを楽しみ、遊びを創り出すこの面白さに気付くにも、夏の自然を楽しむことができるようにする。

園

小学校

ねらい。夏の遊びを工夫して楽しむ。…工夫したり協力したりしながら遊ぶことを通じて、季節の変わりを感じ、自然に興味をもつ

園での経験を生かしてシャボン玉を飛ばすストローや液を選んだり、作ったりできる環境にしてみても…

水でっぼうのコーナーでは、何かにめがけて水を飛ばす姿があった。的の準備をしてみたら挑戦したり友達と比べたりする姿につながるのではないかと。

2時間の授業の中で、どのような力を付けたいか、評価規準を明らかにして授業を組み立て実践することが大切

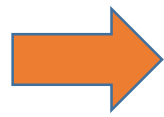
2022/08/31

小学校

目標)夏の自然と月物を使っている遊びを楽しみ、遊びを創り出すこの面白さに気付くにも、夏の自然を楽しむことができるようにする。

【園での経験】

- 自分のやりたいことへ向かっていく力
- 共通の目的に向かって協力することや作る楽しさ
- 役割分担やものについてのいざこざから自分たちで解決すること
- 教え合うこと等



園での経験を活かした授業作り

遊びを通して自ら経験している

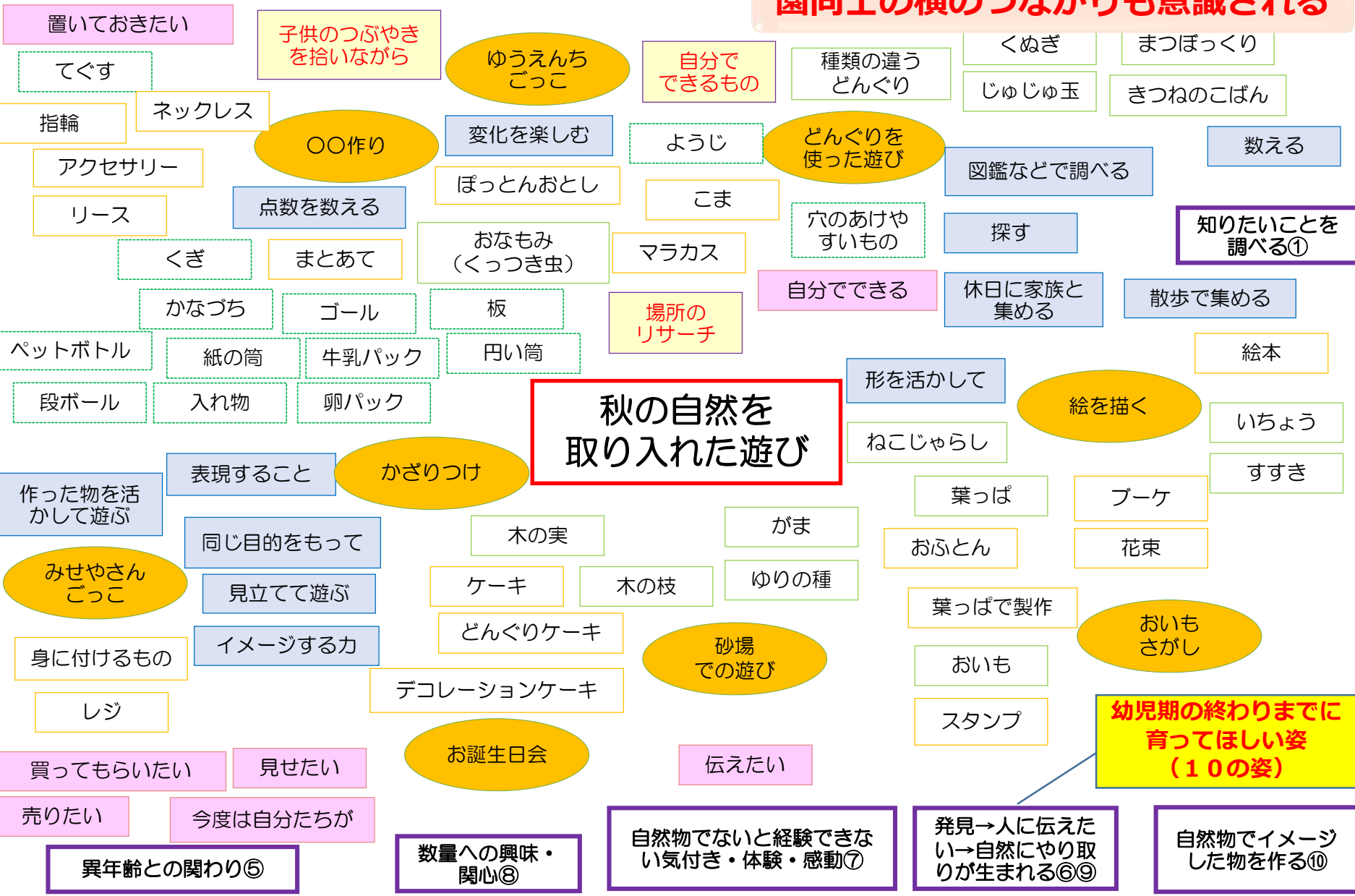
春野東小学校区5歳児年間指導計画の共通点

	4～5月	6～8月	9～12月	1～3月
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 5歳児になった喜びや自覚を持ち、様々な活動に意欲的に取り組む・・・5 身体を動かして遊ぶ楽しさを味わう・・・5 身近な自然（動植物）に興味をもつ楽しむ（野菜や植物の栽培を通して）・・・3 友達と一緒に生活や遊びを楽しむ（つながりを深める）・・・2 	<ul style="list-style-type: none"> 夏の遊びを工夫して楽しむ・・・4 友達とのつながりや関わりを深め、工夫したり協力したりしながら遊ぶことを楽しむ（友だちの思いに気付く）・・・3 季節の移り変わりを感じ、自然に興味をもつ・・・2 目標に向かって仲間と競い合うことを楽しむ（少し難しいことにも挑戦・諦めないで）・・・2 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と共通の目的に向かい、友だちと協力する楽しさ、達成感を味わう（一緒に考えを出し合うことで充実感をもつ）・・・4 季節の移り変わりを感じながら、自然に親しんだり遊びに取り入れて遊ぶことを楽しむ・・・3 	<ul style="list-style-type: none"> 就学への期待・意欲をもつ・・・5 友達と互いの成長よさを認め合う・・・3 自然の変化に興味をもつ・・・2
内容	<ul style="list-style-type: none"> 動植物に興味をもち、成長やふれあいを楽しむ（関心をもつ、愛情をもって世話をする）・・・5 自分の思いを伝えながら安心して過ごせるようにする・・・4 （友達や保育者の話を聞き、内容を理解したり伝えようとしていたりする）・・・4 十分に体を動かして遊ぶ・・・3 信頼関係を築き安心して過ごせるようにしていく・・・3 様々な素材を使って作ることを楽しむ（拭いたり工夫したりして遊びを進める）・・・3 友達と一緒に歌ったり、踊ったりする・・・2 園生活で決まりを確認したり、守ろうとしてりする（生活の場を整えようとする）・・・2 年下の子供に優しく関わる。世話をする・・・2 野菜や植物を栽培して成長や収穫を楽しむ・・・2 文字に興味をもつ・・・2 	<ul style="list-style-type: none"> 体調を崩さないように過ごしていけるようにする（夏の過ごし方がわかる）・・・3 野菜を育てたり収穫したりすることを楽しむ・・・3 意欲的に水と関わり挑戦しようとする（水、砂、泥などを楽しむ）・・・3 汗の始末や衣服の調節をする・・・2 生活や遊びの中で、お互いの思いに違いがあることに気付いていく（自分の気持ちを調節、折り合いをつけながら協力する楽しさや充実感を味わう）・・・2 	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊び、身体を動かすことを楽しむ（ルールを守って遊ぶ充実感を味わう）・・・3 目標（行事）に向かって取り組み、満足感や達成感をもつ・・・3 友達と折り合いをつけながら、互いの考えを認めたり、相手の気持ちに気付いたりする（役割を決めて）・・・3 季節の変化に気づき、自然を遊びに取り入れる・・・3 楽器遊びや、音楽に親しむ・・・3 文字、数、量を遊びに取り入れる・・・2 遊びに必要な材料、素材を考えて使い、工夫して作ったり遊んだりする・・・2 自分に自信をもって生活する、安心して表現・・・2 	<ul style="list-style-type: none"> 文字、数、量への関心をもつ、遊びに取り入れる・・・4 基本的生活習慣の確立→自信、満足感、達成感・・・3 季節（冬）を感じたり、遊びに取り入れる・・・3 暑さや寒さを感じず身体を動かして遊ぶ・・・3 表現する楽しさを味わう（演じる、言葉、動き）・・・3 生活リズムを身に付ける・・・2 クラスやグループで役割分担・協力する・・・2 さいごまでやり遂げる・・・2 異年齢との関わりの中で・・・2 成長の自覚、喜びを実感する・・・2 製作を楽しむ（様々な用具、素材の扱い、繰り返し）・・・2 見通しをもち、時間を意識して過ごす（1日の流れや長期的な見通しがもてるよう、スケジュールを表示）

3

秋の自然を取り入れた遊び

園同士の横のつながりも意識される



③ 連絡会 ～もうすぐ2年生～

単元名) もうすぐ2年生

単元の目標) 入学してからの1年間を振り返り、年長児と関わりを深めたりする活動を通して、1年前の自分と今の自分を比べたり、支えてくれた人々の関係を見付けたりして、自分自身の成長や、役割が増えたことに気づき、進級への期待感や意欲をもち、生活しようとする。

12/27

これまでの交流活動活動を生かす

・今年よりアスの園を出てくる

あたらしくねんをしよう

これまでの交流をいっす (時間経過)

しょうたいたしたことを はなしあおう

やうの事情
きょうの思いを聞く (ヤブコにやう)
話し合い活動

★いちねんかんを ふりのえらう

園での生活や思い出のエピソードをいっす。人型(てまのま)で
かたまりの物語、ワレノ木様
自分下で発表をいっす (時間経過)

ありがとうのわらじをいっす

・この単元の活動のねらいを
学習発表会にいっす

・教育活動を通して
てまのまのねらいを
学習発表会にいっす
(劇、歌、おどろき)

・園での話し合い活動

・年長さんに見せてあげたい
・今年、体験入学→他園から
・前回はアス(園)の
→今回はわらじをいっす
・交流活動(前回)→アス
・ねんをいっす
・話し合い活動をいっす
・自分下で発表をいっす
・楽しんでいっす

・自尊感情の向上
・先生も楽しい
子どもからの感想をいっす
子どもにやさしい心をはたかせる

・今年、体験入学のねらいをいっす
・子どもにやさしい心をはたかせる
・自分下で発表をいっす
・楽しんでいっす
・今年、体験入学のねらいをいっす
・子どもにやさしい心をはたかせる
・自分下で発表をいっす
・楽しんでいっす

園での話し合い活動を生かす

園と小学校の交流

【5歳児園内研修】

高知市春野平和保育園 令和4年7月13日（水）
認定こども園 へいわ幼稚園 令和4年11月2日（水）
高知市春野中央保育園 令和4年11月28日（月）
幼保連携型認定こども園 春野学園
令和5年1月13日（金）

参加者：保育所、認定こども園、小学校、アドバイザー
市教育委員会、市こども未来部、事務局

（予定）

【小学校授業研修】

高知市立春野東小学校 令和4年12月1日（木）

【交流会】

令和4年10月25日（火） 31日（月）

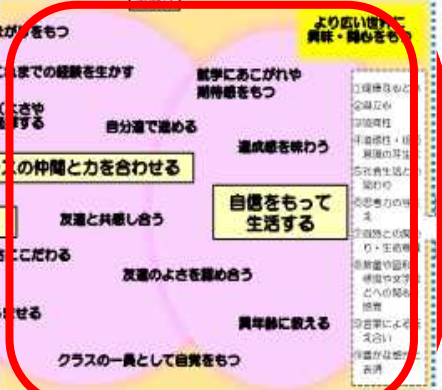
令和4年11月30日（水） 12月1日（木）

【一日入学】

令和5年1月20日（金）

めざす子供像の実現に向け共通して取り組むたい指導

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
児童の姿	<p>年長児になった喜びを感じ、自分のできることをしようとして、友達と一緒に取り組んでいく楽しさを感じたりする。</p> <p>・それぞれの「イメ」分だちで遊びを</p> <p>・クラスで過ごすことを楽しみながら、家の形をもちたり、つなごうを底したりしていく。</p> <p>・生活の中ですることが分り、見通しをもち取り組んでいくようになる。</p> <p>・身近な自然物に</p> <p>・季節の移り変わり</p>	<p>友達同士で楽しくしながら自分なりの目的をもって遊び、自分の力を発揮していく。</p> <p>・友達と工</p> <p>・友達と</p> <p>・最近な事象と関わる中で、変化、仕組み、法則などについて気付くようになる。</p> <p>・ものの色や形、性質などに関心をもち、遊びを楽しむために必要な物を作ったり、探したり、試したりするようになる。</p>	<p>友達と共通の目的に向い、友達と協力して、遊びを進めていく楽しさを味わう。</p> <p>・友達のよさを感じながら共通の目的に向かって遊びを進め、目的を達成し達成感を味わう。</p> <p>・困ったり考えたりしたことを相手に分かるように話すとともに、気を付けて人の話を聞くようになる。</p> <p>・自分の目標に向かってあきらめず挑戦し、自分の力を発揮していくようになる。</p> <p>・読書や文字に対して興味や関心をもち、進んで取り組みたいとする。</p> <p>・様々な人との関わりの中で刺激を受けながら、自分の見方や考えを広げる。</p> <p>・地域の行事や職場体験等体験したことを遊びに取り入れ、より本物らしく再現できるように進んでいくようになる。</p>	<p>遊びや生活を自分たちでつくっていく中で、一人一人のよさが生かされ、クラスの進捗感が生まれる。</p> <p>・自分達でルールを作り、守って遊びを楽しむようになる。</p> <p>・グループやクラスの中で、役割を担って取り組むようになる。</p> <p>・自分の成長を感じて園生活の充実感を味わう。</p> <p>・就学に向けて期待をもちながら進んでいく。</p> <p>・自分たちの生活に共通しをもち、楽しみながら進んでいき、充実感を味わう。</p> <p>・友達との遊びを進めながら互いのよさを認め合い、友達と過ごす喜びを感じる。</p>								
保育者の活動	<p>「わあきれい、不思議だね、どうなるのかな」</p>	<p>「こうしたいから、これ使おう」「やってみたら、こうなったよ」</p>	<p>「あたらよっ。もう一回やってみよう」</p>	<p>「紙をばってこうやって料理するよね」「看板も必要だね」</p>	<p>「今日も挑戦するぞ」「こうするとおもしろいね」</p>							
めざす子供の姿	<p>めざす子供の姿</p>											
予想される活動	<p>予想される活動</p>											
遊びや学びのプロセスで大切にしたい経験	<p>遊びや学びのプロセスで大切にしたい経験</p>											
保育者の関わり	<p>・ やっていかうと一人一人の楽しさを友達と一緒に進んでいく。自然物等の気持ちを一緒に楽しむ。見通しをもって取り組めるようになる。</p> <p>・ 発見や工夫を伝えている。状況を作る。したいことをじっくり楽しめる時間と空間を保障する。絵画・読書等は、</p>											
環境構成	<p>・ 友達の遊ぶ様子から刺激を得られるようにする。・ 友達のよさを感じながら共通の目的に向かって遊びを進め、目的を達成し達成感を味わう。</p> <p>・ イメージを広げられるよう、様々な素材・材料・道具の備蓄場所や数量を工夫したり、図鑑や写真等を活用したりする。・ 水・砂・泥等の自然物の感触や性質を楽しんだり発見したりできるようにする。</p>											
家庭や地域との連携	<p>・ 子供の園での具体的な姿を保護者に伝えながら、子供の良いところを家庭と一緒に伸ばそうとする。</p> <p>・ 子供の困り感に対して、園での環境の工夫や保育者の関わり力、友達とのやり取りなどを保護者に具体的に伝えたり、家庭の様子を聞き取りながら、子供の成長を共に考える。・ 自然との関わり等、書か体験が家庭にもつなげるように生活の様子を知らせる。</p>											
行事等（子供・先生）	<p>○交流会 ○交流会 ○一日入学 ○卒園式 ○引継ぎ連絡会 ○登録</p>											



・ 園に園の思いを伝え合う関係を作り、園の雰囲気をつくる。一人一人が自信をもって行動している姿を認め、就学への期待に共感していきようとする。

・ 感動を皆で共有することや伝え合う喜びを、十分に味わえるようにする。

・ 今まで頑張ったことが繰り返して楽しめるような場や道具を用意する。これまでの経験を生かして、友達と遊びを進めていけるような材料や道具を準備する。

・ 遊びを通して数量（時間）や文字に興味が出てくるような環境を工夫する。

・ 就学に向けて不安や困り感に寄り添いながら園での生活を受け、学校生活につながるように、校区を歩くことや持ち物を自分で準備できるように、家庭と連携して取り組む。

架け橋期のカリキュラム（小学校）（案）

めざす子供像の実現に向けた共通して取り組みたい指導

「主体的にチャレンジし、学びを将来につなぐことができる子ども」～学びの芽生え・学力向上に向けて

A) チャレンジ精神 B) 自尊感情 C) コミュニケーション力 D) 郷土愛

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年目標	・幼少期の経験を生かしながら学習や生活に取り組んでいる。 ・学校での生活は、様々な人々と関わっていることが分り、楽しく安心して過ごそうとしている。 ・友達や先生と一緒に挑戦しようとしている。		・不思議に感じたことについて異議をもちて調べたり、自分の考えを友達に伝えたりしている。 ・地域の自然に触れることで四季の変化や季節の特徴を確かめながら、身近な自然を楽しんでいる。		・互いの話に関心を持ち、相手の思いや考えを受け取ったり、聞いたりしている。学習や生活の中で、 <u>自己の困難を見付け、解決のために活動</u> を工夫したり、他者に伝えたりしている。 ・身近な自然を観察したり、地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、そのすばらしさに気づき、楽しみをもって関わろうとしている。		・自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分の成長に気づいている。 ・支えてくれている人々に感謝の気持ちを持ち、自分の成長への期待をもって <u>意欲的に生活</u> しようとしている。 ・クラスや学校の一員としての存在や役割に <u>喜び</u> を感じている。					
主要な活動	がっこうせいかつ すたあと 国語	がっこうたんけん きれいにさいてね 国語	なつがやつてきた 国語	なつがやつてきた 国語	いきものとながよし (英語)	たのしいあいっぱい (英語)	たのしいあいっぱい (英語)	たのしいあいっぱい (英語)	たのしいあいっぱい (英語)	たのしいあいっぱい (英語)	たのしいあいっぱい (英語)	たのしいあいっぱい (英語)
他教科との関連	<h3>他教科との関連</h3> <p>生活科を中心とした主要活動</p> <p>他教科との関連</p> <ul style="list-style-type: none">国語: 読書、発表、話し合い算数: 図形、数量、図表理科: 観察、実験、説明社会: 調べ学習、発表音楽: 歌、演奏体育: 運動、ゲーム美術: 絵画、工作英語: 基礎的学習 <p>学びに向かう主体的な姿勢 探究する 課題発見・課題解決</p>											
指導内容	・「やってみたい」「しりたい」「できるようにしたい」と思えるような学習対象との出会わせ方、思いや願いを大切にできるような学習展開を工夫する。(通年) ・園での経験を引き出す投げかけをし、子供と一緒に活動の流れを考える。(通年) ・やってみたいこと、聞いてみたいことなどを引き出し、興味・関心を高め、 <u>学校たんけん</u> を中心に学習活動を展開する。 ・学校生活の流れやきまり、学習の流れやルールを確認しつつ、園での経験が活かせるように一緒に考え、進める。		・つぶやきや活動の様子を丁寧に見取り、働きかけ、 <u>活動の充実</u> につなげる。(通年) ・ <u>学習活動や学習形態</u> を工夫し、子供の伝え合う気持ちを引き出す。(通年) ・身近な自然を観察することで、それらの <u>違いや特徴</u> を見付けたり、 <u>伝え合ったり</u> できるようにする。 ・身近なことを伝え合い、授業が豊かになるよう学習を進める。(国語科「みんなにはなそう」との関連)		・自ら活動できるように、 <u>自由に使える材料や道具</u> を種類ごとに分類し、使いやすい場所に準備したり、収集した物を分類して保管できるスペースを準備したりし、様々な素材の特徴に気づくようにする。 ・ <u>友達と共通の目標に向かって学習を進める</u> ことができるように、 <u>単元のゴールまでの授業</u> の流れを活かして、それらを可視化することで、自ら確認しながら学習や活動に向かえるようにしてあげる。 ・友達との共通点・相違点、自分自身のよさに気づけるよう、子供同士がよりつながるように、学習や活動では <u>適切にグループ活動</u> を取り入れる。		・取り組んだことを多様な方法で表現できるようにする。 ・自分の成長は、周囲の人々に支えられていることや内面的な成長に気づき、2年生への <u>願いや期待</u> などもつとめることができるようにする。 ・一人一人の成長や取組の <u>過程</u> を認めながら、 <u>友達への成長への気づき</u> 、 <u>学年全体の成長を喜び合えるように</u> 、児童のつぶやきや発言を認めたり、受け取ったりする。 ・文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける。(国語科の「1年かんをふりかえろう」との関連)		・冬ならではの遊びの経験を発揮できるように、 <u>自由に使える材料や道具</u> を種類ごとに分類し、使いやすい場所に準備する。 ・これまでの学習や生活の足跡の提示物を意識して、自ら自身の成長を振り返ることができるよう、ICTを活用するなど、 <u>提示の仕方</u> を工夫する。			
評価	めざす子供の姿と共にスタタリ期の学校生活や授業について大切にしていることを、 <u>調査や保護者説明会等</u> で伝える。											
実施方法	○入学式	○引継ぎ連絡会			○交流会の打ち合わせ	※園内研修・校内研修への参加	○交流会	○交流会	○交流会	○一日入学		○引継ぎ会

園のカリキュラム

「事例」により、子供の具体的な姿（プロセス）等伝える



事例1:「幼虫を育てよう」 4・5歳児混合(5月)

幼児期の終わりまでに育ててほしい姿 (10の姿)との関連

- ◎自立心 ◎自然との関わり・生命尊重 ◎言葉による伝え合い

これまでの姿

園舎のパンジーにいた幼虫を捕まえたA児は、友達と糸を繋ぎ、エサを授けようとした。そこで、保育者が思いどよみの園舎を一緒に遊び、飼育ケースに入れようとする。近くのB児は「種は水には浮かない」と伝えるので、子供同士幼虫やその運命に興味をもって関わり、飼育する活動が始まった。

◎新しいOの姿

◎自然や動物の命に興味をもって関わり、友達同士捕まえた幼虫を飼育してみたい。生命の不思議さや大切さを知る。
◎身近な生き物を観察し、飼育しようとする意欲や関わり、飼育方法を工夫し、実践する。
◎友達と身近な生き物に助け、言葉で感動などの気持ちも表出する。

遊びの様子(番号・100の姿との関連)

保育者にコーナーを作り、マグロロヒョウモンの幼虫の飼育を始めると、色んな子が興味。◎上手にエサをあげよう！と毎朝エサをあげてきたり、園庭に出ても幼虫を探し回ったりするようになった。やがて、保育者に幼虫の仲間とどんな虫か、最初は怖くて触ることができなかった。◎自分の手で触ると気持ちよさそうと子供たち、さらに虫の友だち。くまやこぶしやアゲハの幼虫も飼育していた。次第で◎幼虫同士で幼虫に接して見たり虫を動かしたり、虫は生き物なんだよ！とこれ以上は飼育してあげたいと子供たちが虫の命を大切に育ててくれるようになった。

★環境の構成、◎保育者の役割

- ★虫を育てたら、どんな虫が孵る、観察や飼育ができるように、飼育室に飼育ケースを用意し、虫の運命、種まき回数を意識しておく。
- ◎子どもの虫の世話やエサのやり方をサポートする。園庭の子も虫の世話ができるように意識しながら虫を育て、子ども自ら虫の世話ができるようにする。
- ★できずから観察する虫の様子をじっくり観察できるように、観察の機会を増やしてあげるように計画しておく。
- ◎虫の観察からくるOの姿や生活、ながら、生き物の不思議さや生命の大切さを理解できるように言葉で説明できる。

事例2:「お花を育てよう」 4・5歳児混合(5月)

幼児期の終わりまでに育ててほしい姿 (10の姿)との関連

- ◎自立心 ◎自然との関わり・生命尊重 ◎言葉による伝え合い

これまでの姿

園舎のパンジーにいた幼虫を捕まえたA児は、友達と糸を繋ぎ、エサを授けようとした。そこで、保育者が思いどよみの園舎を一緒に遊び、飼育ケースに入れようとする。近くのB児は「種は水には浮かない」と伝えるので、子供同士幼虫やその運命に興味をもって関わり、飼育する活動が始まった。

◎新しいOの姿

◎自然や動物の命に興味をもって関わり、友達同士捕まえた幼虫を飼育してみたい。生命の不思議さや大切さを知る。
◎身近な生き物を観察し、飼育しようとする意欲や関わり、飼育方法を工夫し、実践する。
◎友達と身近な生き物に助け、言葉で感動などの気持ちも表出する。

遊びの様子(番号・100の姿との関連)

保育者にコーナーを作り、マグロロヒョウモンの幼虫の飼育を始めると、色んな子が興味。◎上手にエサをあげよう！と毎朝エサをあげてきたり、園庭に出ても幼虫を探し回ったりするようになった。やがて、保育者に幼虫の仲間とどんな虫か、最初は怖くて触ることができなかった。◎自分の手で触ると気持ちよさそうと子供たち、さらに虫の友だち。くまやこぶしやアゲハの幼虫も飼育していた。次第で◎幼虫同士で幼虫に接して見たり虫を動かしたり、虫は生き物なんだよ！とこれ以上は飼育してあげたいと子供たちが虫の命を大切に育ててくれるようになった。

★環境の構成、◎保育者の役割

- ★虫を育てたら、どんな虫が孵る、観察や飼育ができるように、飼育室に飼育ケースを用意し、虫の運命、種まき回数を意識しておく。
- ◎子どもの虫の世話やエサのやり方をサポートする。園庭の子も虫の世話ができるように意識しながら虫を育て、子ども自ら虫の世話ができるようにする。
- ★できずから観察する虫の様子をじっくり観察できるように、観察の機会を増やしてあげるように計画しておく。
- ◎虫の観察からくるOの姿や生活、ながら、生き物の不思議さや生命の大切さを理解できるように言葉で説明できる。

●自立心
みんな自分で育てることに対し、幼虫やその運命に興味を持ち、エサや水のやり方を自分なりに工夫するなどの、主体的に関わりあっている。

●自然への関わり・生命尊重
自分の生き物を大切に育てたり、飼育するの喜びを感じたり、育てる中で、生命がある生き物の愛を感じ、大切にしようとする気持ちをもっている。

●豊かな情緒と表現
生き物の成長に合わせ、心も成長させてあげようなど、心を込めて育てるなど、感情を豊かにせしめる。他の虫や虫になって成長の過程を楽しんでいる。

●保護者への発信ポイント
●幼虫やエサへの関わりから、毎朝の観察を共に育つ機会を認めたいとして、主体的な生き物の世話をするよう環境を工夫していた。幼児期の経験を引き出すことで、今まで以上に虫に関わりあっていたり、思いを馳せたりしながら、主体的に学ぶ環境を作っていました。

●飼育ケースを、廊下やテラスなど、保護者も見るところに置くことで、幼児の興味や生き物との関わりを知ってもらうことができます。遠くからの機会を捉え、幼児の興味などを伝え、教員の子どもの気づきによって、子育ての楽しさにつなげられるといえます。

小学校のカリキュラム

「事例」により、子供の具体的な姿（プロセス）等を伝える

事例7 虫研：なつがやってきた シャボン玉で遊ぶ

1学年7月16日（月）

「なつがやってきたシャボン玉で遊ぶ」の授業の様子を撮影した。子供たちは、シャボン玉を飛ばす楽しみだけでなく、シャボン玉の仕組みや、飛ぶ高さや距離を測るなど、科学的な観察も行っている。

① シャボン玉の仕組み
「シャボン玉は、水と洗剤と空気からできているんだよ。」と先生が説明している。子供たちは、洗剤の量を調節して、シャボン玉の大きさを調整している。

② シャボン玉の観察
「シャボン玉を飛ばしたときに、虹のようになっているんだよ。」と先生が説明している。子供たちは、シャボン玉の虹の色を観察している。

③ シャボン玉の飛ばし方
「シャボン玉を飛ばすときは、口で吹くんだよ。」と先生が説明している。子供たちは、口で吹くことでシャボン玉を飛ばしている。

④ シャボン玉の飛ばし方
「シャボン玉を飛ばすときは、口で吹くんだよ。」と先生が説明している。子供たちは、口で吹くことでシャボン玉を飛ばしている。

⑤ シャボン玉の飛ばし方
「シャボン玉を飛ばすときは、口で吹くんだよ。」と先生が説明している。子供たちは、口で吹くことでシャボン玉を飛ばしている。

児童の姿 学校の生活やクラスの友達の姿などの経験を基に、学習が計画を始める。

目標 児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。

学習計画 児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。

学習内容 児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。

学習方法 児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。

学習成果 児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。

学習評価 児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。

学習指導 児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。

学習支援 児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。

学習環境 児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。

学習資源 児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。

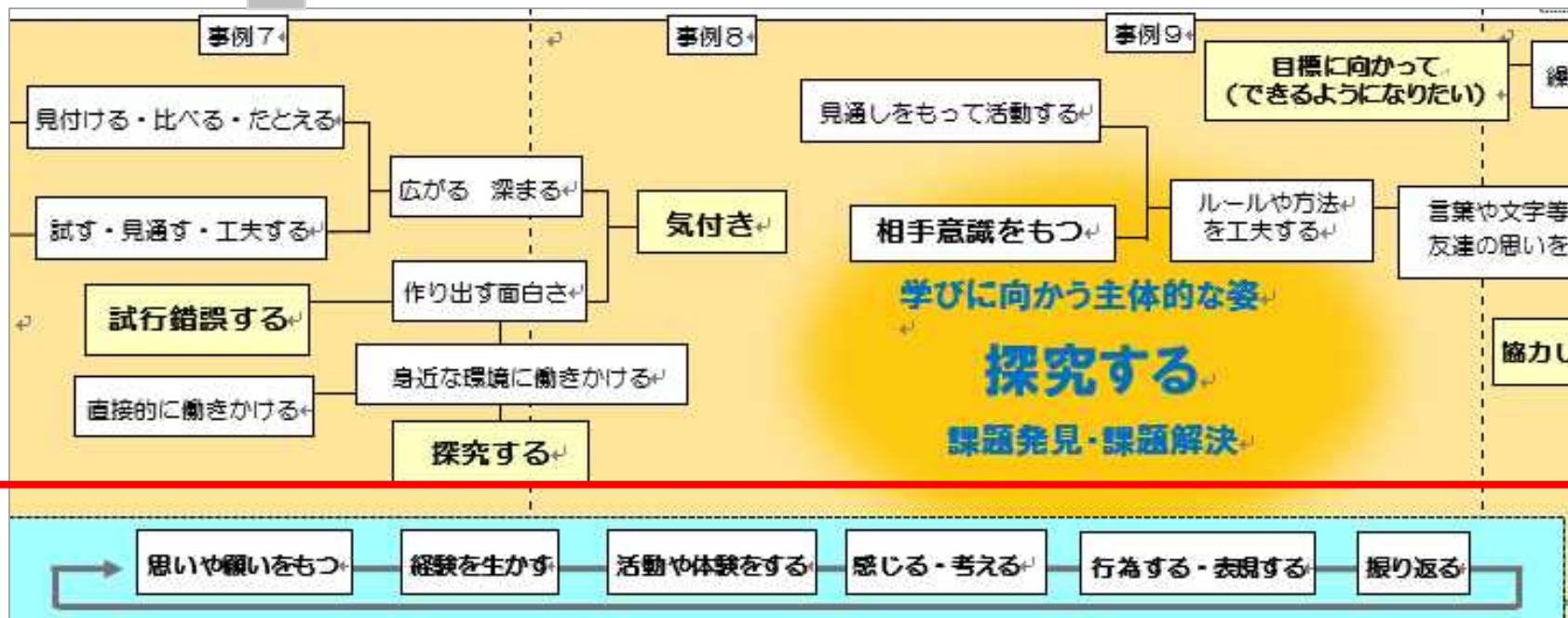
学習評価 児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。

学習指導 児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。

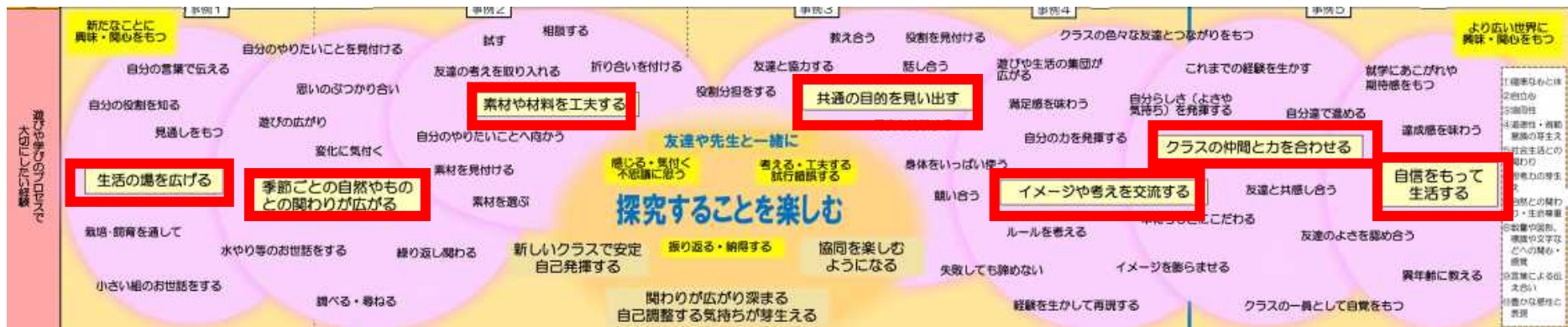
学習支援 児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。

学習環境 児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。

学習資源 児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。児童の姿に合わせた具体的な姿を伝える。



園のカリキュラム（遊びや学びのプロセスで大切にしたい経験）



5歳児で大切にしたい7つの経験

各園（5園）の年間指導計画に落とし込む

- ・これまでなかったものは、書き加える
- ・7つの経験が分かるように年間指導計画に下線やマークなどを入れる

各園の実情に合わせて、校区内全ての園で必ず行う

参加者の感想より

園や小学校の教育方法の見直しやさらなる充実への意識が向上！

- ・「秋の自然を取り入れた遊び」の教材研究では、園での活動や経験を知ることができた。その園での経験を子供に聞いてそれを基にして授業を発展させたい。
(1年担任)
- ・園、小学校の遊びや活動を聞いて、自分の保育の振り返りができた。環境構成の充実につなげたり、今の子供の姿を見ながら「子供に委ねる」ことも必要と感じた。
(保育士)
- ・送り出す子供について同じ方向で話し合えることがうれしい。また、送り出した子供の育ちへの振り返りになった。自園では、5歳ならでの遊びの保証をしていきたい。
(園長)
- ・課題が見えた。園での経験がよくわかった。小学生になると子供から発信することや自分から関わることが少ないと感じた。授業改善につなげたい。また、幼児期の終わりまでに育ててほしい姿の視点は6年生まで大切にしたい。
(小学校教頭)

よさと今後に向けて

子供を真ん中にした 話し合いのプロセスにこそ 価値があります！

◎よさ

- ・各園の保育者（主に5歳児担任）と小学校1年担任が子供の姿を通して実践を語ることで、保育者は、他園の実践を知り、同じ地域で子供を育てるという視点で自園の指導計画や実践を見直すきっかけとなった。
- ・保育者は、小学校の生活科の授業や生活する姿を聞くことで、1年生の4月から6月の姿をイメージし、その具体的なつながりを見直すきっかけとなった。
- ・1年担任は、子供達が遊びの中で経験していることや、育っている力を知ることで、園での経験を授業に活かした授業づくりを行うという視点をもつことができた。

◎今後に向けて

- ・実践から育とうとしている力についてさらに深めることができると、その時期の発達段階に応じた「経験させたいこと」が明確になり、指導計画の見直しにつながる。
- ・園と小学校での共通した活動の中でのねらいや目標の違いを明確にすることが、経験を活かした接続カリキュラムの完成に近づいていく。

今後に向けて

2-(6) 進め方のイメージ

注：基礎づくりから改善・発展サイクルの定着に至るまでのプロセスの目安。実際には、地域の実態に応じ、各フェーズ間を行きつ戻りつしながら発展している。



■カリキュラム開発委員会 ②

- ★カリキュラムの実施・検証・充実
- ★教職員や保護者へのアンケート調査

■園・小学校 ③

- ★公開保育・授業・交流活動等の実施
- ★教育課程・指導計画等の見直し・充実
- ★定期的な連絡会の実施

■自治体 ①

- ★合同研修（シンポジウム等）の実施
- ★アドバイザー等による訪問支援
- ★モデル地域の取組を県全域に周知
- ★研修教材の作成（DVD）

子供を真ん中にした話し合いの充実へ

架け橋プログラムの進め方

「架け橋期のカリキュラム」づくりのポイント

架け橋プログラムの進め方

参考資料 令和5年6月
高知県教育委員会幼保支援助

「架け橋期^(※)のカリキュラム」づくりのポイント (幼保小が、子どもをまんなかにして互いの教育内容を話し合い、一緒にカリキュラムを作っていく取組)

本資料は、令和4年度に教育委員会が文部科学省から受託して実施したモデル事業の集約を踏まえ、取組の進め方の参考としてまとめたものです。
(※)幼保小が連携して、期待する子ども像や育みたい資質・能力、廣く展開される活動や小学校の主要科を中心とした各教科等の單元構成等を精選化したもの。(R5.2.27中央教育審議会初等中等教育分科会「学びや生活の連続をつくる幼児教育と小学校教育の接続について」)

1 市町村における意思決定

- 所管や部局の枠を越えて取り組むことについて、市町村として意思決定する
- 各所管課で担当者を配置する

2 園・校との合意の形成

- 市町村担当者が各園・校に趣旨を説明するなどして、設置者(国公立・私立)、施設類型(保育所・幼稚園・認定こども園等)に関わらず、校区内のすべての施設と「子どもをまんなかにして互いの教育内容を平等に話し合う取組」を進めることについて合意を得る

3 市町村による「話し合い」の体制整備

- 市町村が事務局の役割を担う(保幼と小とで所管や部局が異なる場合は双方が役割分担しつつ協力して進める)
- 施設と相談のうえ、校長と園長・担任同士等による会議体の設置やカリキュラム作成に向けた年間計画を作成する

すでに実施している会を利用しましょう。

4 「子どもをまんなかにして互いの教育内容を話し合う」取組開始

(1) 校区内の「めざす子ども像」を決める

- 校区内の子どもの「よさ」と「課題」を出し合い、どのような子どもを育てたいか「めざす子ども像」を決める
 - 市町村の方針や園・小学校の教育目標、子どもの実態、保護者や地域の声などを踏まえて決める
 - コミュニティスクールの「めざす姿」など他団体のものを活用することも可能
- 「めざす子ども像」に関連する子どもの具体的な姿を出し合う

(2) 育みたい力を共有する

- 「めざす子ども像」実現のために育みたい資質や能力について、3指針・要領及び小学校学習指導要領の「3つの資質・能力」(幼児期の終わりまでに育ってほしい姿)等を手掛かりにしながらか明確にして共有する
 - 0から18歳(12歳)までを貫通した学びの連続性にも配慮する

(3) 互いの教育内容を話し合う

- 教育内容や指導方法を伝え合い、幼児期の学びが小学校の学習にどのようにつながっているか互いに理解を深める
 - 校内研修・園内研修の相互参加などにより、両側の子どもの姿の事例を通して話し合うこと
- 「めざす子ども像」に向けて、子どもたちに必要な「園での活動や経験」(指導計画等)や「単元構成等」(教育課程等)は何か、共通の視点をもって出し合う

(4) 話し合いを踏まえて、「架け橋期(5歳児～小1の2年間)のカリキュラム」を一緒に作る

- これまでの話し合いを踏まえて、事務局が中心となって「架け橋期のカリキュラム」をとりまとめる

5 カリキュラムを実践・評価・改善していく取組の定着

- 「子どもをまんなかにして互いの教育内容を話し合う」を継続し、カリキュラムを実践・評価・改善していく仕組みを定着させる

・学校運営協議会
・保幼小連絡会

・校区の保幼小合同研修
・授業研究
・園内研修への参加
(協議にも参加)
・文化交流などの打合わせ
実施・振り返りの会

・一日入学の打合せ
振り返りの会
引き継ぎ会

カリキュラム完成

話し合い
(評価・改善)

実践
子ども
まんなか

架け橋プログラムの目指すもの

架け橋期の教育の一層の充実



幼児教育施設

- ・ 小学校以降の教育を見据えて、小学校以降の学習や生活の基盤の育成を行う

子ども主体

子供が主体的な**遊び**の中で**試行錯誤**し考えた
り工夫したりする

保育者の**関わり**や
環境構成を工夫

泣 小学校教育の前倒しではない

小学校

- ・ 幼児期に育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を充実すること

小学校での学習や生活
を**楽しい**と感じる

小学校を**自分の居場所**
として認識できる

泣 考えたいスイッチを入れよう

架け橋プログラム～国の動向～

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版） について【その1】

文部科学省 初等中等教育局 幼児教育課長
大杉 住子



幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版） について【その2】

文部科学省 初等中等教育局 幼児教育課 子育て支援指導官
澤田 佳代



幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版） について【その4】

文部科学省 初等中等教育局 幼児教育課 幼児教育企画官
藤岡 謙一



幼保小の架け橋プログラムの実施に 向けての手引き（初版）

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版） について【その5】

文部科学省初等中等教育局幼児教育課 教科調査官 小久保 篤子
文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 齋藤 博伸



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を 架け橋プログラムで活用するために

白梅学園大学名誉教授
無藤 隆



文部科学省作成動画配信
(1本15分～30分)

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版） について【その3】

文部科学省 初等中等教育局 幼児教育課 幼児教育調査官
横山 真貴子



幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの 参考資料（初版）

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの 参考資料（初版）

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、
幼保小の先生と一緒に子供の姿から話し合おう



(文部科学省HPより)

「高知県架け橋プログラムシンポジウム」 を開催します

日時

令和5年 12月 26日（火） 12：45 予定

場所

高知県立県民文化ホール グリーンホール
—(ふくし交流プラザ)—

内容 (予定)

- ・県の取組について
- ・モデル地域実践発表
- ・パネルディスカッション

登壇者： 神長美津子氏（大阪総合保育大学特任教授）
吉田豊香氏（日本生活科・総合的学習教育学会顧問）
横山真紀子氏（文部科学省調査官）
モデル地域小学校代表
モデル地域保育施設代表

コーディネーター：山下文一氏（高知学園短期大学副学長）

